

### 三河安城の課題

- ・気軽にランチする店が少なくランチ難民が増加
- ・電灯が少なく暗いイメージがある
- ・在来線から降りた時に気軽に立ち寄れる店が少ない
- ・三河安城駅に行く理由がない

### 魅力ある三河安城の創出

#### 継続的な賑わいの創出

地消地産や地元のモノをアピールができるイベント等

#### スポーツのまち

スポーツにて健康で幸せに暮らせるまちづくり

#### 運営方法(例)

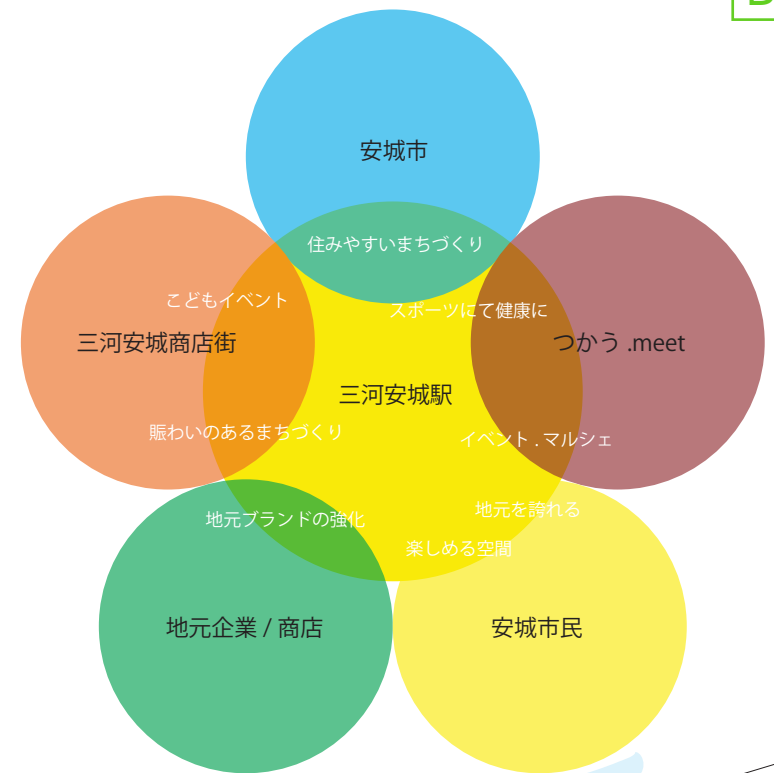
- ・つかう.meet事務局にてイベント・マルシェ等を運営して頂き賑わいをもたらせて頂きます
- ・シェアショップにて安城市で開業を考えている方にお店をトライして頂き安城市に商店の賑わいをもたらします
- ・3×3バスケ、スケートボード、芝生でヨガができスポーツにて健康で幸せなまちづくりを繋げます
- ・無人コンビニ等を誘致し三河安城駅にも最先端の取り組みをし知名度アップに繋がります

#### 地域ブランドの向上

地元企業様やお店の自社アピールができる場所

#### 住みやすいまちづくり

子供達が安心・安全に遊べる施設



### デザインコンセプト

#### ■メインコンセプト

異なる時代に建設された新幹線三河安城駅北口に交差する3つの線（東海道新幹線、東海道本線、明治用水）は、それぞれ何らかの意図をもって建設されたと予想されます。しかし、現在に至ってはその線の存在が無秩序に交差しているように見受けられます。今回、時代の異なる線の交点を地理的に導き出し、3つが重なる場所へ「点に柱」「軸に梁」を配置しました。これまで意味を見出すことがなかった線を繋ぎ、重なり合うことで他の地域にはない三河安城でしか生み出せない豊かな場を生み出します。

#### ■計画地の特徴

今回の計画地は、在来線と新幹線の駅をもち、それらを利用してさまざまな人々が行き交う場所になります。多くの他地域の人や、地域に根ざした人々など目的を別にした人の受け皿になるような公共的な場をつくる潜在能力をもつ本計画地に、どこからでもアクセスでき、日常・非日常にかかわらずどんなシーンにも対応できる冗長性をもった場を計画します。駅や明治用水の緑道に向かうおらかな通路を敷地北側をトレースするように設け、新幹線側の敷地南側には民間の運営を軸としたショップに面する通路を配します。これらの通路の間には、芝生や3×3バスケができる広場を設けています。通路を介して広場でのアクティビティが敷地の外に広がっていくことで、利用する人々の親しみだけでなく三河安城のまち全体をつかいたおすきっかけとなる計画となります。



時代背景のことなる3つの軸が交差する点へ生み出された場